二十六日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵　税　金十五錢
□一部賣　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓[illegible]
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英

國民の知りたいのは認識の材料となる知識ではない。國策に沿ふ喜びを感得したいのだ（今日出海）

閼伽井風

青壯年團結成に就いて

K T 生

青壯年團の結成もほゞ完成したやうで平市のため同慶に堪へぬ。分團副團長は指名の由で別とするも理事幹事の詮衡には各區共に隣組常會區內會常會等を開き非常に努力された事は新体制下の結成だけに最下部より盛上る力に依つたもので之又同慶の至りだ然るにこの私の住む○○區だけは……そう言ふ私も知らざる中に幹部の一人として選ばれた者だが……何等事前に話もなく人選され何か名譽でも下附してやる樣な態度は甚だ不愉快な近頃の出來事だ私は別として他の人選に苦勞の跡でも見えるなら諒とすべきだが、理事はお定りの班長殿幹部に至つては自己の自由になる人物一も二も常會長樣々まかせの部下のみ。もつと悪く言ふなら自己の利益を得るに便なる人物のみ選んでゐる。中には金持が二、三はある。此れは分團規約とかの分團の費用は勤勞奉仕、其他により云々とある其他の場合の金箱の積りで選定した樣だ。相變らず○○區式のやり方で同意出來ない不純なものの多い事を遺憾とする。苟くも戰時下の青壯年團だ！政府も必要に迫られて舊團体を解消してまで新たに結成したのだ。理事や幹部の詮衡に私慾を捨て舊弊をあらため革新的な積極性のある眞劍な人物を選ばれん事を切望する。本文は聊か總親和を害する樣に思はれるかも知れぬが、悪を善にする爲には余儀ない事と思ふ。遠廻しの言ひ方が一つの禮儀の樣に考へた事は遠い昔の事で、現非常時下に於ては率直に指摘して是正すべき時代でありそうする事が今日の國民だと信じる。

民間療法と藥草

野崎順

前書き

最近新聞雜誌等に野外藥草利用の記事を度々見るが、これは今次世界大戰のもたらせる物資枯渇の結果である

第一次世界大戰當時を回顧するに戰前我が國の製藥原料の大部分は外國より輸入せられたのであるが、大戰に入るやこれ等諸原料は輸入絶え國內の藥草を原料としての製藥が始められた。

例へば十二指腸虫驅除藥として用ひられるゝ「チモール」は印度より輸入せられたのであるが、戰前一封度二圓位のものが七十五圓位まで暴騰する程の原料不足となつた、この頃埼玉縣地方でも山野にこの植物を栽培し農民は莫大なる利益を得、又一方醫療方面は辛うじて「チモール」缺乏の難を免れたのである。

又古來漢藥にケツ草根として用ひられてゐた、ケツ草の需要が戰時歐米に高まり戰前百斤三四十圓位のものが三百五十圓位まで暴騰した事があつた。元來ケツ草は（和名かのこ草）我が國産のものが最優良とされてゐるのである。

こんな狀況で第一次世界大戰當時は大分藥草熱が勃興した。戰爭終結と共に相場は低下したのであるが藥草に對する認識は急激に進步した。

最近の藥草利用の奬勵は戰時に於けるこれ等製藥原料の不足より來たる事は否めないが一方民間療法の科學的啓發により正しき利用を望むからである。民間療法とは素人療法の事であるが、其の中には迷信的なものも尠くない。草根木皮或は魚虫類鑛物等を用ゐる古來東洋に行はれた漢方を根據とする療法が一般に行はれて居るのである。

民間療法と云へば野蠻國の療法の様に考へちよつと風邪を引いても直ぐ醫者にかゝり決して賣藥等を飲まない人、藥草の如きものを利用しない人々もかなり多い様であるが、藥草の利用は古今東西野蠻國も文明國も等しく用ひられて居るのである。

西洋は今尚フランスイタリヤ又アメリカ等に於ても流行してゐるので、獨り東洋のみの野蠻療法ではないのである。

我が國の山野には採集して利用すれば、藥効の顯著な藥草が澤山自生してゐる。然し多くの人はこれ等藥草が何んな所に生えてゐるのか、どんな形のものか。何時頃採集すべきか。又如何して利用すべきかを知らない。こんな事で路傍に澤山自生してゐる藥草を捨てゝ置く事は國家としても不經濟で、甚だ勿體ない事と考へらるについて多年採集研究せる資料に基づいて少しく書く事にした。

冬日抄

（五）

木下雁次

一月三十一日　晴

教員の事故病缺等が十名最近のレコードだ。お蔭で補缺が一時間あてられてゐる。

放課後寄宿舍の決算割合に早く終了した。

一日四十六錢、例月より高い、例の如く舍監の先生方と夕食を共にして七時に引上げた、出直すのも面倒だから床屋に寄つて髪を刈つて貰ふ。客がないのですぐ椅子に坐らされた白い布の上に刈り取られた髪がばさり〳〵と落ちてくる、大部分は黒だが白いのも相當多い。いつもの事ながら白髪を見るのは矢張佗しい氣がする。ここに來て數年間は「俺は若い」といふ意識が強かつた、それが四十の聲をきくと急に「俺はかうして居られぬ」といふ追ひかけられるやうな感がして來た。和雄が△△病院で死んだ年から白髪がめつきりふえた、翌年母が死んだそれでまた白髪がふえた、顏を剃つてすつかり出來あがつたら頭が輕くなつたやうで、爽やかな氣分になつた。八時から補習科の教材をしらべる、月給袋をのぞいて見ると殘りがほとんどない來月の月給日迄の小遣はとても足りない。物價の高くなつた事に氣がつく。（完）

事變歌

（平）佐藤靖夫

（北支山西省○○陸軍病院にて）

戰傷勇士の姿

咳すれば血も呼吸も吹く傷口を
手に押へつゝかつがれて來ぬ

勝いくさうれしくもなし倒れ伏す
勇士の姿いたはしくして

痛むかと聞けばかすかに首振りぬ
戰友の深傷のいたいたじかり

英靈

散りてこそ大和櫻の惜しまるゝ
逝くものゝふの骨をひろいて

英靈に手向けし香に立つ煙は
母國の空にたなびきにけり

東天を拜し靜かに祈るなり
護國の柱やすらかにあれ

病死せし戰友はふたゝびかへり來ず
面影ほのかに笑ひをれども

深傷にも平氣よそほふ戰友の
何もかたり得ず逝くこのあさけ

いけにへの墓標に手向く香煙は
ぬかづくわれらの瞼にし染む

國の爲命を捨てしますらをの
靈安かれとひたに祈りぬ

異說赤穂浪士（205）

桃川若燕

（畫）城木喬

吉良家の模樣を說く大石は悠揚迫らず鮮かに申し開きを續けた

『其儀は好んで大勢を斬り捨てたものにあらず只上野介在所を尋ねんと思ふとき承はれば新規抱へ入れの侍共手向ひ仕り矢庭に我々黨中に對して手向ひ致したるに依つて已を得ず相手仕りましたが素より好んで人を殺すにあらず、御檢視相成りしとあらば御判りでもございませう。一人たりとも止めを刺したものはなくこは全く手向ひ致した者を斬り捨てたまでの事、此段御仁政願ひ奉ります』

『然らば第八條を尋ねる。吉良屋敷に推參の砌り吉良邸內の前後を拔身の槍を以て取圍み候由承知致すその者は何れに隱れしか有態に申し上げい』

『思ひ掛けなき仰せを承はりまするもの、四十余人一味同心の外助勢を致したるものは一人も無之然るに拔き身の槍を以て吉良の屋敷を取圍みたるなど〻申しまするは思ひもよらず、內藏之助愚案を廻らすに大方逃げ去りし吉良の家來共よりの訴へと存じまする。これは雪あかりの寒夜にございました故、軒に下る凍氷を月明りにチラりと見て槍と見違へたのかと存じます』

『淺家の本家から助勢として參じた黑槍組を指摘したには內藏之助も弱つたが、辛くも返事をした。すると土屋相模守が、

『成程、臆病の眼から見れば軒に下る凍氷を槍と見誤るであらう。アッハッハッ……』

と笑つた。一座の役人連中も大石一統に同情してゐるから、無理な辯護だとは思ふが、強つて云ひ破らうとはしない、小笠原佐渡守も笑ひを含み

『成程、然らば第九條を尋ねる、討入りの節飛道具を用ひし事覺えあるか、何うぢや』

『飛道具とのお尋ね恐れ入り奉ります、我々黨中討入りの節、飛道具を用ひましたるもの一人もこれなく』

『イヤイヤ然うでない吉良邸より證據として半弓へ矢を添へて參つた、それでも飛道具を用ひんと云ふか』

『半弓を用ひましても飛道具は用ひません、半弓を飛道具なりとのお尋ねならば、近頃遺憾に存じます、半弓は座敷道具同樣のもの飛道具とは鐵砲石火矢の儀と存じます』

『然らば第十條を相尋ねる。長道具を用ひし事は如何ぢや』

『恐れ乍ら長柄と申しまするは二間柄以上と辨へ居ります。我々其推參仕りましたは悉く手槍にございますゆゑ長道具とは申されません、この段御賢慮を……』

『フームでは第十一條を尋ねる、內匠頭の志を繼ぎ、仇討をなさんとするならば何故上野介出入りの時を待つてなさん、吉良左兵衛屋敷へ亂入したるは不屆至極である』

『恐れ乍ら吉良上野殿參勤交代の諸侯ならばその道中路次を覗ひますが、御役は高家、殊に近頃は御隱居と相成りましてより何れへもお出向事なく據なく吉良邸へ推參仕りましてございます。この段御仁政を願ひ奉ります』

『然らば第十二條に采配を用ひし事、これは如何ぢや』

問はれて大石は暫し眼を伏せてゐたが稍あつて

『采配を用ひたりとのお尋ね恐れ入ります。しかし浪人の某、如何してこれを用ひませうや。采配と申すは切先の紙三百六十一枚、これは一年の日に象りしもの、其外樣々に謂はれありと承知致しますそれ亂世の時なればとて騎馬にあつて采配を用ひるは一方の大將ならでは叶はぬ事、今日浪人の內藏之助天下を憚り采配を用ひし覺え無之、尤も吉良上野介殿を討止め主人の欝憤を晴さんとする時なれば、日本六十余州大小神祇に誓ひ、この神々の神名を紙に記しこれを束ねとなして當夜下知致したに相違ございません…』

和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
電九・九九

產科、婦人科
根本醫院
平市南町　電話三四番

メガネの店

早期檢眼
正確な眼鏡により視力を保全致しませう
各眼科醫指定處方眼鏡調製
玉屋眼鏡店　平市二丁目　電話635（呼）

內臟外科
整形外科
レントゲン科
松村醫院外科部（平市南町）
松村外科
醫學博士　松村亨

梅雨期せまる
晴雨傘とレーンコート

通學服マント	六、五〇ヨリ
大人マント	一五、二五〃
本絹レーンコート	二〇、〇〇〃
婦人用オイルシルクコート	一五、六〇〃
紳士用オイルシルクコート	一三、〇〇〃

平市　大黑屋

急施
水道架設

小名濱町・特典受付開始
家庭の皆樣
水道水を使ひませう

現在小名濱町には戸數參千八拾五戸ありますが今迄に申込みに成つた家庭は約五十八%に當る千八百戸（うち工事完了千七百十戸）でつまり殘りの千二百八十五戸が未だ未布設のわけで御座います。御承知の通り水道は衞生の點からも、火防の上からも極めて大切で若し茲に新しい設備たる水道水を使用せずして傳染病に侵され多端な町費の負擔に加重を來たす樣な事がありましては甚だ遺憾な事と存じます

特典期間
五月十五日より
來月十四日まで

今申込れる方のお德は？
1 道路部分（水道鐵管の埋設される處）は町費負擔
2 宅地內の給水管六米は町費負擔
3 水道使用料は使ひ初めた月一ケ月は無料
4 設計手數料は無料
【期間後は一切町費補助はありません】

申込み手續きは簡單！
先づ所定の給水工事請求書に記入捺印して水道部（電話244番）又は組長さんへ願出れば良いのです
詳しくは水道部に御問合せ下さい

【町の事業は我等の事業】
小名濱町水道部　電話二四四番

世界的治療機
超短波　時代來る
四百四病の中『ガン』以外は必ず治ると東京帝大眞鍋嘉一郞博士の證明するアコマ超短波治療器にて一日も早く如何なる難病も實驗治療して下さい
お試し下さい　十日間程　無料實驗　朝八時より午後五時迄
福島縣總代理店　川崎松之介商店　平市新川町一四
特約店　丹野自轉車店　小名濱町

御挨拶

謹啓時下初夏之候各位愈御清穆の段奉賀候陳者不肖等從來各個人營業中は格別の御愛顧を賜り奉深謝候偖時局下に於ける斯業界の新体制確立の要請に即應し省縣令に依る計畫出荷の實施に備へ低物價政策に協力配給の圓滑適正を期する爲從來の移出業者及び地方卸業連携統合して移出共販の整備に萬全を期し多年經驗ある人的總和に依り今般

有限會社小名濱鮮魚介移出共販所

を組織し、個人營業權の一切を當會社に於て繼承一元的に取扱を致す事と相成候間今後共一層の御援助と御引立を賜度奉懇願候適而從來の各店に對する御註文は今後於當會社一切御取扱可申候間御諒承被下度候

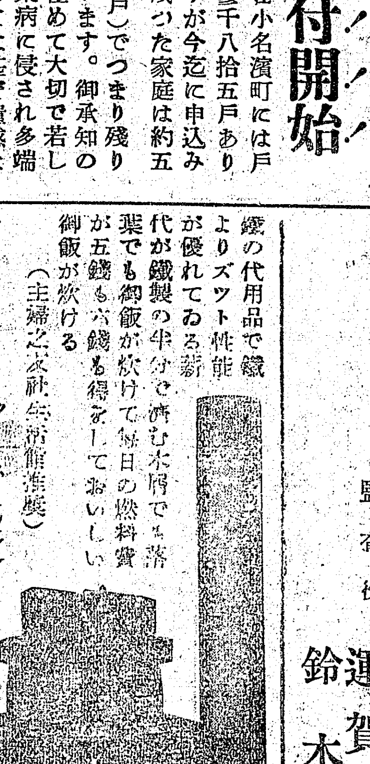
尚各商店より一々御挨拶申上可き筈の處乍略儀連名を以て御挨拶旁々貴意を得度如斯に御座候　敬具

昭和十六年五月

福島縣石城郡小名濱町字町五番地
有限會社小名濱鮮魚介移出共販所　電話（小名濱局）三番

代表取締役　小野豐次
常務取締役　馬上一
〃　馬上庄次
〃　運上喜一
取締役　[illegible]賀熊次郎
〃　立花新次郎
〃　櫻井吉五郎
監査役　運賀金次郎
鈴木七郎

鐵の代用品で鐵よりズツト性能が優れてゐる新代が鐵製の半分で濟む木屑でも落葉でも御飯が炊けて毎日の燃料費が五錢も六錢も得をして御飯がおいしい
御飯が炊ける
（主婦之友社、無料館推奨）
資源愛護
燃料經濟
廢物利用
特許　久壽竈
二升炊　六圓
三升炊　六圓五十錢
四升炊　八圓
平市一丁目
武田陶器店　電話二二九



春のヤマカのお知せ＝
チヤック付勤勞シャツ
若い人のワイシャツ
本絹のネクタイ
國産の中折
澤山取揃へました
平・二丁目
ヤマカ
TEL605

フタ八磁氣療院
平市中町（公會堂通り）フタ八印刷所內
電話一九三番

輝く日本海戰

第卅六回海軍記念日を迎へ

參戰老勇士の回顧

五月雨霽々として若葉を潤す二十五日、記者は第三十六回〃輝く海軍記念日〃を一層意義深からしむべく日本海々戰の老勇士平市大工町酒類販賣業三等機關兵曹石澤茂さん（六三）と小名濱町銀座通り機關兵曹長小川爲八郎翁（七〇）を訪問回顧談を聞く……この日奇しくも街には「獨英大海戰」の號外が飛び一抹の興奮が身を引締めた

先づ話は歴史の頁を繰つて北清事變から始まる、北清事變は諸外國が清國に余り露骨に蠶食したゝめ三十二年義和團の亂が起き、聯合國側がこの騒動を鎭めるため出兵した、即ち北清事件である、その後三十五年日英同盟が締結され更にロシア軍の滿洲撤兵問題から三十七年二月遂に日露の國交斷絶、それより海軍部隊の旅順攻撃、黄海の撃滅戰日本海の大海戰と我が無敵海軍が輝く武威を世界に宣揚した、石城の郷土からは前記小川、石澤兩氏の外多數海の勇士が參戰された

想起せよ！

敵の旗艦を追跡

黄海に撃滅・遂に藻屑と化す

武勲の石澤兵曹語る

平市大工町酒類販賣業石澤茂さんは今年六十三才、機關三等兵曹、海の老勇士

明治三十二年十一月一日横須賀海兵團に入團三十三年十二月日清戰役で清國から分取つた戰艦「鎭遠」（艦長今井大佐）に乘組み北清事變に從軍、三十六年一旦海兵團に轉じ日露役勃發するや更に戰鬪艦「日進」に乘り廣瀬中佐と共に旅順封鎖に從事、戰友のうち四人も決死隊に加はり護國の華と散つた……それから内地に一時引上げ〇〇方面へ遠洋航海の途に上らうとした時例のバルチツク艦隊の噂となり同航海を打切り八月十八日黄海へ出動、十一隻から成る敵のアジア艦隊と我が艦隊が遭遇した、我が方は約六隻の戰鬪艦と巡洋艦から成る海軍部隊で戰鬪の結果

浦鹽に逃げ込んだのが三隻、旅順へ四隻上海へ一隻逃れて武装解除し三隻は行方不明となつた

この戰鬪で石澤さんの乘込んだ日進はマカロフ大將の乘込んだ艦を追掛けこれを撃滅し黄海の藻屑としたもの、武勲の石澤さんは六十代の人とは思はれぬ樣な元氣な聲で次の如く語つた

何と云つても當時は飛行機はなく勿論潜水艦もない單純な海戰であつた、私等の乘つた艦の戰法は沿岸へ々々へと敵艦を追込み撃滅したものだ、それでも敵艦は日本軍が潜水艇を使用するのを非常に懼れ無闇に水中へ砲彈を浴せたものだ、當時から見れば現在は飛行機、潜水艇などを使用する立体戰であるから戰法は丸つきり異ふ、特に來るべき戰は黄海や日本海の小範圍でなく實に大平洋だ、今回迎へた第三十六回海軍記念日をチヤンスにシツカリとガツチリと手を組んでこの大難局に對處すべきだらうと思ひます

四度參戰の老勇士

海軍戰へ警告

〃今東郷〃…小川爲八郎兵曹長

〃今東郷〃の尊稱ある小名濱町銀座通り機關兵曹長小川爲八郎翁（七〇）

從軍すること前後四回日清、北清、日露、日獨等あらゆる海戰に臨んだ地方切つての老勇士で明治二十六年十二月横須賀海兵團に入り日清役の黄海戰には當時我が國唯一の戰艦「扶桑」（艦長荒井大佐）に乘込み、三十五年九月十七日の北清事變には同艦で出動、更に日本海戰には巡洋艦「八雲」で旅順を攻撃八月十日には旅順より逃げ出した敵艦を殲滅すべく黄海の戰に　また大正二年には驅逐艦「山彦」に乘り日獨戰には同艦で東京灣の警備に當つた、なほ小川翁はこの外明治三十年戰艦「鎭遠」に乘り昨年横濱沖で執行された二千六百年記念大艦觀式には參觀の光榮に浴し、名譽ある觀艦式に三回臨席の光榮にあつた人〃今東郷さん〃の話は日清、日露を面白く對照し更に銃後における我等の決意を大体次の如く語つてくれた

今後は立体戰

日清戰爭には戰鬪艦「扶桑」で參戰したが當時我が國には戰艦が一隻で清國には有名な「定遠」「鎭遠」の優秀艦があつた、これに對抗して所謂「嚴島」「松島」「橋立」の海防戰艦を建造したものだつたが海戰の結果は我が海軍部隊が大勝利「鎭遠」は我が國の分取り品と成つた、それから十年經つて日露役にも優秀艦があつた、日清役の樣な木造船は殆んとなく裝備の點からも諸外國に大して遜色がない、日本海々戰の時は巡洋艦「八雲」に乘込み先づ旅順を攻撃、逃げ出す敵を撃つて黄海の戰へ、更に轉戰して日本海の大海戰……等思ふ存分の働きが出來た、而しこれからの戰は大平洋だ、作戰も異ふ、これに加へ空中或は水中に立体戰であるから飽迄〃科學〃と云ふ點には重きを置かなくてはならぬと思ふ、それから海軍志願兵の事だが例年志願率が惡く我々海軍關係者の心配する處であつたが海軍軍事思想の普及に努めた結果今年は縣下に優秀な成績を收め就中内郷、小名濱が良かつた、今後は青年に呼掛け蹶つて志願のあるやうにしたいと思つてゐる、もう我々の時代は過ぎ大平洋戰は今の若い人達にやつて貰はねばならぬ、それから今一つ、銃後の人々は爆彈の威力と云ふことに案外無關心である、軍艦でさへ命中彈を被むると沈沒する艦さへある、ましてや木造家屋などは滲澹たるものがあると思ふ、隣組あたりでも〃消火〃と云ふ事は充分研究して空襲に備へなくてはならぬと思ふ

海戰の話は語れど盡さず

二等機關兵曹　島田善吉翁

四倉町字町頭居住島田善吉翁（六二）當時二五才で軍艦高千穗艦（三千七百トン）運轉副部長二等機關兵曹として乘込んでゐた、二十七日午前六時突然起床ラッパが艦内に鳴り渡つた、早速部下一名を甲板に走らせた處報知艦八重山のマスト高く『敵艦見ゆ』との信號がかかげられた、我が艦隊は旗艦三笠を先頭に舳艫相銜み堂々と對島沖合へ進航、午後二時四十五分『各艦奮闘すべし開戰用意』の信號が掲げられ間もなく有名なる『皇國の興廢此の一戰にあり』のＺ信號が三笠艦のマスト高く掲げられた、双眼鏡を手にして見ると黒煙たなびかせつつ濟州島沖合に敵艦が姿を現はした、我が艦長毛利一衞大佐は艦員一同に對し『各艦より遲れを取るな』と力強い命令を發した、沖の島を中心に砲門を開いたのは午後三時二十分頃戰は二十八日の午後二時まで續けられ世界戰史に輝く大勝利を博したのである、海戰の話は三、四時間でも盡きない』と結んだ

尚島田老は明二十七日の記念日に一日仕事を休み忠魂碑を參拜し午後から戰歿勇士の墓參をする

皇國の興廢『此一戰にあり』

あす市内各校の催し

あすは皇國の興廢を賭けた海軍記念日、平市内各學校ではこの日を記念して次の樣な催しがある

第一　平第一國民學校では全生徒校庭に集合國旗掲揚、校長訓話あり、終つて八時から各學年別に健歩遠足をする

第三　授業二時間後記念式を擧行午前十時から同校々庭に〃健康日本〃を象徴する大運動會を繰廣げる

第四　午前八時より講堂に記念式を擧げ各學級別の強行軍を行つたのち校庭で分列行進に移り萬才三唱して解散する

磐中　午前八時から國旗掲揚式を擧げ同九時より往復八里の強行軍を實施して若人の意氣を示す

平工　朝會で校長の訓話があり、同戰陣訓を朗讀し正午から新校舍の整理作業を行ひ勤勞の午後を送る

平商　午前九時同校出發神谷方面へマラソンを擧行し更に二十八日午後一時より講堂に設樂特務中尉を招へて日露戰の講話を聽く

磐女　この日午前八時同校を出發、縣社子鍬倉神社に武運長久を祈願する

光榮に輝く

日赤支部今日總會

畏くも總裁閑院宮載仁親王殿下の御台臨を仰ぎ日赤福島支部の有功章並に特別社員章御親授式は今廿六日福島市教育會館で擧行された、平、石城地方の光榮に浴する者次の如し

【御賜餐御召者】▲福島貴族院議員諸橋久太郎

【有功章新拜受者】▲石城郡小名濱、野崎貞行、水野德次郎、柳内吉助▲湯本、鈴木稻實▲平、山崎爽三郎、同高橋龜松、同中野庄吉、同鈴木定藏、平伊藤秀吉、平委員長平市青沼鉾太郎▲豐間、福島支部療養所長回春園長安田善一

【特別功勞者】▲小名濱町、小野晋平▲永戸、荻野倉太

【佩有功章特別社員】▲平、百澤易興、同橋本善平、同根本益利▲小名濱、水野政治郎▲上小川、草野正壽▲四倉、鈴木唯治

【特別社員章拜受者總代】婦人、平市久野ひさ

煙草耕作表彰

專賣局平出張所管内煙草耕作組合聯合會優良者表彰式は明二十七日午前十時から平市公會堂に開く、表彰される者次の通り

【優良煙草耕作者】△一等双葉郡久の濱阿部與八、同田人村綠川久太△二等、植田町小澤政藏、同山田村上壁隆、同双葉郡太久村飯島攝、同泉村吉田祐忠△三等渡邊村遠藤源重外五名

【總收得金五百圓以上の耕作者】△一等、一、〇五五圓久の濱阿部與八△二等、九六五圓瀧田村三橋正信、同泉村松本綠△三等、九二二圓瀧田村山内晃

【第二回煙草立毛品評會受賞者】△一等賞、上小川草野喬、下小川茂木庄九郎、神谷西郡義忠、大浦仲野忠太郎、大野木村義孝、鹿島箱崎安治、高久鈴木辰治郎、飯野山崎正、豐間鈴木幸重、泉吉田祐正、同吉田芳敏、磐崎大井川和雄、小名濱皆川正八郎、玉川永山韶義、渡邊岡部豊次、植田小澤政藏、同佐藤丑太郎、山田上壁隆、勿來下山田辰藏、錦赤津長次郎、上遠野鈴木八千代、同吉田文司、入遠野江坂正高、田人鈴木定義、同綠川久太外（双葉郡五）名△二等、七十名△三等、百十名

鷄鳴會の赤ちやん大會

四倉町鷄鳴會主催の第二回赤ちやん大會は來月十二日頃役場に開催するが參加資格の赤ちやんは昭和十五年一月一日より同年十二月卅一日までの間に生れたものであると

感激の場面

高田病院で全行程終る

高田から…中島、岡君

二十三日午前九時・高田の陸軍病院長佐澤中佐殿から電話で、十時までに病院に來る樣との事、早速自動車で掛付ける、病院の門を通れば懷かしい院長殿は表玄關に立つて居られた、仁丹の看板の樣な髭をはやした院長殿忘れる事の出來ない懷かしい顔だ、佐澤院長殿とは中支の最前線で砲聲、銃聲を聞き乍ら何回となく共に呑み喰ひした懷かしい院長殿だ、御歸還後仙台第一陸軍病院長を勤て居られた當時にもお逢ひして居るので殊更に御懷かしく思はれる、玄關に入るとニコ〳〵し乍ら出迎へられ『待つて居たぞ、ようこそ來て吳れた、有難う〳〵』と手をとらんばかりにして迎へて下さる、應接間に自ら御案内下されて先月閣下（荻洲）からも聞いて居た……君の方の新聞社からも案内が有つたが丁度檢閲が有つたので新聞社の方に手紙を出したのだが君等が出發した後だつたので氣の毒した、一日休まして濟まんかつたよ其の内に集合したとの知らせが有つたので早速講堂に行くと院長殿はアレをやれ〳〵と幾度も仰しやる、アレとは陣中で荻洲閣下との劇的な感激の場面である、集まつた勇士の中は顔見知りの人も大分居られたので閣下の聲姿摸寫を演ずる、院長殿始め勇士皆スヽり泣く笑ひの慰問一時間廿分にして後相變らず修理慰問移にる、修理百十本、此高田には福島語の兵隊は相當に多い好間、小名濱、須賀川と次々に面會に來る、話しはつきず午後病院を辭す、院長殿吾々を見送られてもう歸るのか、有難う嬉く禮を言ふぞ、と手を握らる、實に感無量である、現地で逢つた當時の思ひ出は部隊長でも兵卒でも皆同じである、私達の志した演藝と万年筆修理慰問は高田の陸軍病院で全部終了したのである、仙台師管下全部の修理數實に一千本を突破した、今回の慰問行脚に對し多大な御贊助下さいました各位に感激申上げると同時に慰問修了を御報告申上げる

江名鮮魚統制

新機構着々進む

農林省並に縣當局の指示に基き江名町漁業組合及び海産商（鮮魚仲買人、製造業者）は生鮮魚介出荷に對し寄々機構の方法を協議してゐたが大体その構成案成り近く實現への大道に進んでゐる

その構成大綱は江名漁業組合事業部門として〃江名生鮮魚介出荷部〃を創し漁業組合員外の海産商は漁業組合員たるの資格を得る爲めに相應の持機をなし先づ組合員となり、新組合員は出荷部へ二十萬圓の出資を爲す事（保証金の意味）而して船主と新加入組合員は出荷に對する利益を折半する

以上の事業計畫を遂行の爲めに設立委員會を設け具体化に精進してゐるが成立後は出荷統制委員會を置き出荷最高計畫を樹て江名中の作兩港水揚鮮魚の出荷を圖り各部長下には係長を置きその下に係員を配置し同業共榮を旗印とした方策で近くその實現を見る筈である

電話業にメス

仲介者の許可制實施

申請は今日から

電話の架設數が制限されて以來平市内の電話價格は一個千三、四百圓に高騰し價格統制時代に逆行するの狀態にあるため電話の賣買と賣價等に適正を期すべく仙台遞信局では既報の如く電話賣買仲介業者の許可制を實施することになり調査を進めてゐたが愈々實施することに決定、今廿六日から五日間平郵便局で仲介業者の申請書を受理することになつた希望者は左の書類を添へて申請されたいと

資産調書、身分証明書、戸籍謄本、履歴書

尚許可制が實施されると登録しない者の商賣が禁じられることになり、許可は嚴重に審査し犯罪者などは不許可の方針らしい

改正される飯米通帳

明日區内會配布

平市では六月一日から改正される飯米配給に萬遺漏無きを期し新通帳の調製を急いでゐたが漸く完了したので明廿七日中に區内會長へ全部配布し、更に隣組を經て廿九日までには配布することになつた

當初米穀組合を經由實績を調査した上で各戸へ配る豫定だつたが時間が無いのでお米屋さんでは後廻しとなつた

市街地並に砂糖增配

小名濱町民喜ぶ

六月一日より米配給額變更に關し小名濱町では二十五日午後七時より、第一校講堂にこれが徹底を期すべく町内會長組長の參集を求め趣意、方法の說明を爲した

尙ほ五月節句を前にして砂糖配給の繰上を爲し二十六日に一齊配付する事になり從來は一人平均六十匁の配給を市街地の意味で八十匁に增配される事となつた

江名町役場

陣容漸次整備

江名町役場では曩に收入役伊藤正平氏を迎へ今度は平市鈴木盛之助氏を迎へ庶務文書を擔當せしめ、元兵事係江名肇氏の復歸も七月には實現する模樣である

子供隣組

慰問袋一個寄託

古鍛冶町の子供隣組では二十六日市役所へ慰問袋一個寄託した

落磐の殉職者

今日合同葬執行

内郷村磐炭住吉坑の落磐事件で生埋めされた六名は二十五日午後五時に至つて殘る四名の死体が發掘されたので同鑛では今二十六日午後三時よりこれ等貴い産業戰士の合同葬を同村宮瑞寶寺で嚴肅裡に執行した

營業用白米適正協議

今日實績を檢討

料理店、洋食店、飲食店等へ配給する白米の適正を期すべく平市で今廿六日午前十時から市會議事堂へ各業者代表の參集を求め、實績問題に關し協議した

好間村長再選と決る

好間村々長滿期改選村會は今二十六日午後一時より役場に開き滿場一致で現村長金成淺治氏が重任した、尚ほ金成氏はこれで村長五期である

内郷村葬

四柱合同で執行

内郷村では昨二十五日午後一時より同村内町國民學校に同村出身の齊原光春上等兵、渡邊惣太郎上等兵、本田平上等兵、柴田勝造上等兵の合同村葬を執行した

江名役場改築延期

江名町役場の改築は前作山町長時代よりの計畫中のものであつたが過般太町長は町會協議會に持出し諮つた處強硬な反對ある爲め無期延期となつた

この案は現役場を一萬圓で信用組合に賣却し小野晋平氏から三千圓の寄附内諾ありその他漁業組合、信用組合その他より七千圓の寄附は可能であるから二萬圓で岸浦埋立地に役場を建設する計畫のものであつた

警防委員會

重要案件協議

平市警防委員會は明二十七日午後一時より市役所に開き次の事項を協議する

△喞筒購入に關する件△團員詰所建設の件△自動車喞筒修繕に關する件

傷痍軍人

感謝の獻金

平市二丁目東北坑木會社々員小野瀨四郎君はこの程金十圓と共に『私は今度歸還した傷兵ですが不自由な身を皆さんが親切にして下さるので感激に耐へません、私もこの御恩に酬いるため今後は好きな酒も絶對にやめ毎月獻金するつもりです取あへず五月分として貴官を通じ僅ですが國防獻金さして戴きます』と平署長宛に獻金を申出たので署員一同感激してゐる

南町青年

解散記念に寄附

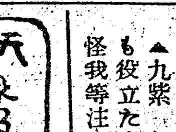
平市第十六區（南町）青年團では二十六日市銃後奉公會へ八圓四十錢を寄附

平市慶弔錄

【出生】△平市四丁目三十二地地安部均二女可那子さん△平市大字上平窪字橫山六十一番地薄葉隆吉四男則正さん△平市字正内町八十番地二階堂宗八郎長女玲子さん△平市字材木町三十六番地小林米藏五男康浩さん△平市字長橋町十五番地鈴木儀十長女キクさん

【死亡】▲平市字長橋町十五番地鈴木キクさん（一）

火曜　乙亥　赤口　破　尾宿



舊五月二日

新五月廿七日

▲一白　力足らざるを悟りて賢者の意見を求め有利

▲二黑　進むときは過ちあれ共退くに咎なく平なり

▲三碧　運氣意外に引立たず融和を主とし本業守れ

▲四綠　投機的の事業は大失敗あり小事と雖焦るな

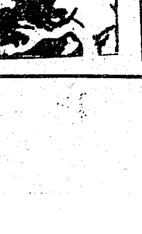
▲五黃　成功は遲くとも緩々進むが勝轉宅普請見合

▲六白　競爭心を起さば負けとなるべし移轉動土凶

▲七赤　心の保養を事一として元氣の回復に勉めよ

▲八白　運氣申し分なし萬事進取的態度を採れ有功

▲九紫　智惠も才覺も役立たざる日病難怪我等注意



今晚　南東の風曇り小雨模樣

明日　南北の風後北北東の風曇り次第に好くなります

滿潮（二十五日）　前三、三五　後六、〇〇

干潮　前一一、二五　後一一、五五

御料理　平　三田小路　一の井　電一六七

おちの良い　マルミ洗濯石鹼

白衣勇士慰問報告

中島、岡兩君の勞苦を謝す

☆…本社が江湖各方面の熱烈な御支援を受け、御國のために傷ついた白衣の勇士慰問行脚は、豫想以上の成果を收め長岡日赤病院を最後に全コース無事終了、中島湖洲、岡時保兩君は前後十一日の日程を終へて廿四日歸社した

【宮城縣】山下療養所、仙台陸軍病院、同分院、鳴子病院中田、川渡兩療養所

【福島縣】若松病院（飯坂分院は同院の都合に依り次回へ延期

【新潟縣】新發田分院、柏崎分院、高田病院、長岡日赤病院村松病院も都合に依つて中止

☆…各病院共中島君得意の演藝と漫談で勇士一同を爆笑させ、携行の必勝ゲームを贈つて病床に呻吟する勇士を慰め、最初の試みである岡君の萬年筆無料修理は各病院で大歡迎され最も有意義な試みであつた

本社の今次計畫に御贊助金品御寄託の篤志家に感謝の意を表し、中島、岡兩君の勞を犒ひ此處に慰問の結果を御報告申上げます

總經費貳百六拾九圓

一、慰問日數　十一日『第一次宮城縣下五日間、同第二次福島、新潟縣下六日』

一、慰問品　必勝ゲーム二百五十六個原價七十六圓八十錢

一、萬年筆無料修理　千五本（ペン先、キャップ、軸等材料提供原價五十三圓）

一、旅費其の他經費　百四十圓

支出合計金二百六十九圓八十錢

内、一般寄附金百十圓

本社支出金五十圓

兩君負擔金百九圓八十錢（外に十一日慰問奉仕）

☆…今回の計畫は中島、岡兩君の發意に本社が共鳴し一部旅費を支給側面から援助したもので兩君が多忙な身体を十一日間に亘つて奉仕し然も百十余圓の自費を投ずるなど犧牲的行爲には感激させられた重ねて各方面の御援助と兩慰問使に謝意を表す

磐城每日新聞社